

組織目標評価報告書（平成22年度）

部局名： 大学院医歯薬学総合研究科(医学系)
医療教育統合開発センター

組織目標		達成状況(成果)
(下記3項目について、特に目標とする客観的指標がある場合は、数値データを引用して記載してください。)		
教 育	学部、研究科、病院、医療教育統合開発センターが一丸となって、本学を中心とするシームレスな医師のキャリアパスの確立を目指す。 大学院定員充足を目指す。 本学と、国内の卓越した研究施設との連携大学院の設置を検討する。 医療教育統合開発センターの人員を充実させ臨床系教育の有機的、機能的な展開を進め、機能の充実を図る。	学部、研修医、大学院まで、シームレス人材のため、研究科長(開発センター長)、病院長(研修センター長)、医学部長のリーダーシップで、『医療教育統合開発センター-医学教育部門・卒後臨床研修センター合同会議』を毎月開催している。 ART(アドバンスド・リサーチ・トレーニング)プログラムが定着し、ITP(インターナショナル・トレーニング・プログラム)という大学院生や若手研究者の海外派遣制度を運用し、1月には両プログラム合同の国際シンポジウムを開催した。 理化学研究所神戸研究所と7月協定を締結、文部科学省「岡山大・理化学研究所の連携大学院コースを核にした分子イメージングの教育研究拠点形成」に採択され、2月キックオフシンポジウムを開催、(23年度)4月より分子イメージングコースを開設する。 医療教育統合開発センターの人員を充実させ、臨床系教育企画委員等の協力のもと、チーム医療シミュレーション教育による臨床能力スキルアッププロジェクトを推進した。
	地域産学官共同研究拠点整備事業:OMICSおかやまメディカルイノベーションセンターの設置を推進する。 科研費及び外部資金のさらなる獲得を推進する取り組みを行う。 医学系の基礎系及び臨床系中期将来構想委員会の答申を受けて、医学系中期将来構想を検討する。	本研究科に、OMIC事業の実質的な運営にあたる産学官連携センターを設置し、専任教授、特別契約職員助教等を配置した。工事については、予定通り、3月竣工、施設検査を実施し、(23年度)4月分子イメージング部門等の事業が開始される。 教員活動評価で、科研費及び外部資金の獲得状況を反映させる集計表を2年がかりで完成させた。 基礎系及び臨床系それぞれの中期将来構想委員会で、種々意見交換を行って策定した答申案を摺り合わせるによりある程度人事を動かすことが出来、分野の再編統合計画の方向性を見いだすことが出来た。
	病院と連携して、女性医師等復職支援事業及び岡山県地域医療再生計画を推進する。 病院と連携して、岡山市総合医療センター:岡山ER構想を推進する。	岡山県による寄付講座「地域医療人材育成講座」を設ける協定を4月に締結し、5月同講座を開講した。現在、片岡教授、佐藤教授を中心に、将来の岡山県の地域医療を担う人材育成に関する研究を実施開始した。女性医師等復職支援事業は、今年度からは本研究科に「医療人キャリアセンターMUSCAT」を設置して実施し、県の地域医療再生計画のなかにも取り上げられた。 4月地域医療学講座(岡山市寄付講座)を開講した。本講座は、研究科に拠点を置き、ER型救急医療システムを構築するための研究を行っている。現在、市場教授他2名の教員を配置し、岡山市と連携しERを目指した救急医療体制づくりと、急務であるER救急医の養成を行っている。
	達成度: ④ 3 2 1	達成度: 4 ③ 2 1
	達成度: ④ 3 2 1	達成度: ④ 3 2 1
評 価 の 客 観 的 指 標 ・ 定 義	事 項	定 義 (抜 粋)
	学部入試倍率	評価年度の前年に実施した入試と評価年度に実施した入試の志願倍率 算出方法:前期入試、後期入試、AO入試及び推薦入試毎及び各入試の合計により算出した「志願者÷募集人員(小数点3位を四捨五入)」の数値
	大学院充足率	評価年度と評価年度の翌年度の充足率 算出方法:4月入学者の「入学定員÷入学者数(小数点3位を四捨五入)」の数値。
	留年・休学・退学者数	評価年度と評価年度の翌年度の留年・休学・退学者数 留年:正規の在学年数を経過したにも関わらず卒業延期となっている者
	就職率	評価年度のデータが揃わないこと等が想定されるため、比較可能な直近3年程度の推移・傾向から判断する。
	共同研究件数、受託研究件数、受入金額	評価年度の前年と評価年度に実施しているとして公表した共同研究及び受託研究件数、受入金額
【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点を記載してください。 地域産学官共同研究拠点整備事業:OMICSおかやまメディカルイノベーションセンターについて、引き続きOMIC事業推進本部長の研究・学術担当理事のもと、産学官連携センターが実質的な運営を円滑に開始できるよう取り組む必要がある。 岡山県地域医療再生計画に引き続き連携し、地域医療総合支援センターの新営に向けて取り組む必要がある。		

【達成度】4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。